

2011年度受託研究概要報告

まちの歴史文化資源調査業務

研究メンバー

山之内誠	環境・建築デザイン学科准教授
川北健雄	環境・建築デザイン学科教授
長濱伸貴	環境・建築デザイン学科准教授
金子晋也	環境・建築デザイン学科助手
三友奈々	環境・建築デザイン学科助手
不破正仁	環境・建築デザイン学科助手

委託者

三木市文化遺産活性化実行委員会

研究概要

本研究調査は、三木市の旧市街（三木城址付近の旧湯の山街道沿い）を対象に、まちの意匠、材料、工法、環境、精神などの、いわゆる「三木市の歴史文化資源」を整理・記録するとともに、それらをわかりやすい形で住民たちに示し、彼らに三木独自の歴史文化を再認識してもらい、最終的に継続的なまちづくりへと繋げていく手法を探ることを目的としている。

本研究は平成22年度に実施した予備調査に引き続き行ったもので、同25年度まで継続して実施することを予定している。2年目にあたる平成23年度は、三木旧市街におけるフィールドワークや地域住民からの聞き取り調査などを通じて、まちの歴史文化資源の発掘・再発見のための基礎資料作りに着手し、またそれらの情報を活用した観光ツールの開発にも取り組んだ。

具体的には、前年度に行った予備調査の結果をふまえ、主として本町2・3丁目のなかの湯の山街道のナメラ商店街付近から西側のエリアについて、町家の現況調査および屋外表出物等の調査を実施し、町並みの現況を把握しつつ、まちの歴史文化資源として考慮すべき対象について検討を行った。また、調査を通じてまちのなかで発見した疑問や、まちの現況の観察だけではわからない歴史的経緯などについて、地域でまちづくりの活動に取り組んでいる住民5名に対し座談会形式で聞き取り調査を実施した。さらに、これらの調査から得た情報を活用し、まち歩き観光用のツールとして小冊子の試作し、3月のまち歩きイベントにおいて使用した。

研究成果

平成23年度の研究成果は、次の4点にまとめられる。

- 1) 町家分布の特徴：旧市街の一部のみの町家調査による暫定的な結果であるが、全体として2階建瓦葺の町家のスケールが保たれていること／起り屋根・厨子二階・虫籠窓・袖壁などの伝統的要素を備えた町家は特にナメラ商店街とかわし道沿いに集中していること／ナメラ商店街には看板建築が3割近く残存し、大正期から戦後にかけての賑わいを伝えていることなどがわかった。
- 2) 町並み景観の魅力の特徴：暫定的な結果ではあるが、若者（学生）の目を通して見ると、魅力的な建築細部／植栽等に見る生活の溢れ出し／賑やかだった時代の名残り／自然発生的な面白い景観／廃墟の美学を感じさせるような風景／急速に昔になりつつある生活の風景などの要素が、三木の町並み景観の魅力を構成していることがわかった。
- 3) 地域住民からの聞き取り調査：三木城下町まちづくり協議会のメンバーを中心とする5名の地域住民から聞き取り調査を行い、地域住民によるこれまでのまちづくり活動の内容／旧市街の各所の歴史的変遷／まちに関する昔の記憶／まちの情報源などについて、貴重な情報を得ることができた。
- 4) まち歩き用小冊子の試作：上記1)～3)の成果も盛り込み、まち歩き観光用のツールとして、まちの見どころを紹介した小冊子（A6判28ページ（表紙含む）フルカラー）を制作し、実際のまち歩きイベント（3月実施）で好評を得た。

